

重症患者の集中記録の再検討

南7階病棟 発表者 高見沢 恵子

丸山 ひさみ・渡辺 敬子・上野 多美子・小高 玲子
一志 静香・滝沢 信子・降幡 信子・木間 けい子
山口 享子・伊藤 みはる・秋山 のぞみ・上條 薫
上原 恵子・中村 多津子

I はじめに

当病棟は神経内科の他に循環器内科が加わり、急激な生命徴候の変化をきたす患者が増えてきた。そこで、私共は、従来使われてきた記録を見直すことにより、患者の病態を把握し、症状の急速な変化に対応しうる看護をめざし、この研究にとりくんだ。

II 研究期間

昭和58年11月～昭和59年7月

III 研究方法

1) 従来の経過表での問題点

① 昭和53年度作成の経過表 (step 1とする)

使用期間 昭和53年4月～昭和58年10月

② 昭和58年度の経過表 (step 2とする)

使用期間 昭和58年10月～昭和59年1月

2) 解決策

① step 1, 2よりの問題点を医師と共に検討

② step 3, 4を実施しての分析, 検討

③ step 5, 6を実施, 評価

IV 経過

1) step 1の分析

- 温度表にスペースをとりすぎている為看護記録欄が狭い。
- 病態把握, 問題点が, 明確にされていない。
- 時間を追って変化してゆくなかでの, 看護目標が立てられていない。
- 保存するのに用紙が厚すぎる。

2) step 2の分析

- 経過記録欄が広く, 診断・医師記録により医師と患者の状態を話し合える。
- 看護計画欄にその日の計画を立てることにより, 援助ができる。
- 用紙は横77cmと長く, 扱いにくい。
- 保存するには適当である。

- 不整脈モニター，血行動態，心電図所見等，観察項目が循環器中心になっている。
- 3) step 1, 2 の検討
- 医師，看護婦両者の立場から，step 2 の経過表を基に作成した方が，患者の状態がわかりやすい。診断→問題点→治療方針→看護目標にそって，看護婦がどう判断し，行為にもっていったのか，その結果，どのような評価が得られたかがわかる。
 - 医師，看護婦の両者側に，記録が保存できること。
 - 指示表がそのまま入院係へ行くよう3枚綴りの複写とし，保存しやすいように，step 2 の厚さにする。
 - 意識レベルは，3・3・9度方式を用いる。
 - 医師側からは温度表は縦の方が見やすい，看護婦側は横に慣れているので使いやすいという意見があり，両方を使ってみる。
 - step 2 の経過表は横に長すぎるので，検討が必要である。

V 実施，及び評価

1) 経過表作成

- ① 温度表を横に使ってみる（step 3 とする）
実施期間 昭和59年2月3日～2月8日
- ② 温度表を縦に使ってみる（step 4 とする）
実施期間 昭和59年2月9日～2月20日
- ③ step 3, 4 を実施し検討した結果，作成された経過表（step 5 とする）
実施期間 昭和59年2月21日～3月1日
- ④ 現在使用中の経過表 横 60.5 cm（step 6 とする）
実施期間 昭和59年3月2日～7月現在

2) step 3 の分析

- 温度表を横に使い，見やすい。
- 記録に関しては書きにくくスペースが狭い。
- 英文の医師記録が記載しにくい。
- 横にそった時，輸液量，尿量等がわかりにくい。

3) step 4 の分析

- 温度表が縦であり，記録しやすい。
- 詳細な記録を必要とする時，時間欄が必要である。
- サイン欄が設けられていなかった為，責任の所在がはっきりしない。
- step 3, 4 では経過表作成途中であり，コピー用紙を用いたため，検査データを記載しにくく，見にくいことを感じた。

4) step 3, 4 の検討

- 温度表は，縦書きを用いる。
- 記載方法は，step 4 とする。
- インクの濃さは，step 2 とする。

- 時間欄を設ける。
- 受け持ち看護婦のサイン欄を設ける。

5) step 5, 6 の実施しての評価

step 5 では、備考欄を設け、検査データ、レントゲン所見、看護上の留意点を書くようスペースを広くとった。しかし看護目標の欄を、もう少し広くした方がよいという意見が多かった。(資料1参照)そこで左側に指示表、診断、問題点、看護目標、安静度等の項目をもってくることにより、実際に看護をすすめていく上での計画が立てられる。

また、右側に温度表、水分出納、状態のチェック、処置、医師記録等の欄をもってくることにより、実施、評価、そして次の看護へと継続できるように step 6 の経過表を作成した。最初の頃は水分出納と計算の仕方が慣れず、記載に時間がかかった。又、定められた符号が活用できていない、記録を見直した時に読みとれないことが多い、等反省として出された。経過表 step 6 を用いることにより、患者の状態の変化が把握しやすく、看護婦がどう判断し行為するかの手助けになっていることを確認しあった。

医師は経過記録を、看護婦は診断、問題点、医師記録を通して、両者のコミュニケーションがはかられ、話しあう機会が多くなり、患者に目を向けられるようになった。

VI まとめ

重症患者の集中記録を使用するまでに、何種類もの経過表を作成し検討を重ねてきた。

1. 看護目標が明確にされてチームの質の向上に役立つ。
2. 患者の全身状態を総合的に、1枚の経過表で把握できる。
3. 記録に長い時間とられることもなくその分、患者に目を向けることができる。
4. 医師とのチームワークがとれる。
5. 引き継ぎも正確に短時間でこなされる。

VII おわりに

経過表を活用し問題意識をもって、患者に目を向けられるようになってきた。また、記録に対する認識を深め、1つ1つの看護行為に責任をもつことの大切さを学んだ。今後も更に、よい看護をめざし努力したいと思います。

最後に、重症患者の集中記録作成にあたり積極的に御協力下さった先生方に深く感謝致します。

<参考文献>

- 看護研究集録：P 117～120 信州大学医学部附属病院 昭和52年度
- 東京女子医大内科集中治療記録
- 細田四郎他：看護展望 P11～31 メヂカルフレンド社 1982
- 幡井ぎん他：看護記録 P 4～32 医学書院 1979

No	月/日	患者名	男	主治医	血液型	HB	ワ氏
	号室		女		Rh ()	+ -	+ -

輸液	注射	診断	発症月日	月/日	()時	()分	
		問題点					
		看護目標					

処置	処方	安静度					
		飲水	ml		食事		
		マーゲンゾンデ	バルンカテーテル	カニューレ()			
		()Fr	()Fr	()ml	()Fr	air()ml	

検査	血算・凝スク・FDP・化学・血清・ESR・血糖 (胸・腹)×-P・検尿・検便・(尿・痰)培養・尿化学
その他	
ハートスコープ()時~()時・ペースメーカー()時~()時 動脈圧モニター()時~()時 ・ ECG()分 ()回 レスピレーター() ()時~()時・インスピロン()時~()時 O ₂ ()時~()時 ()l/min・超音波ネブライザー()分 吸引(有・無)・精密尿量計()個・自動注入器()本()時~()時	

(信州大学第3内科)

資料1

T	35	36	37	38	39	40	41	呼吸管理 ()	注射 記号 ml	/h	/h	/h	輸液 Total	水分	尿量	水分 バランス	食事 etc	糞便 前日	呼吸 状態	脈 拍 状態	体重		() 日前体重		身長			
	P	50	70	90	110	130	150														170	kg	kg	cm	cm			
R	0	10	20	30	40	50	60														受持Ns, サイン		深	日	準			
B P	0	50	100	150	200	250	300														時間	処	置	経過	記録	医師	記録	
5																												
6																												
7																												
8																												
9																												
10																												
11																												
12																												
13																												
14																												
15																												
16																												
17																												
18																												
19																												
20																												
21																												
22																												
23																												
24																												
1																												
2																												
3																												
4																												
5																												

×体温・脈拍 △呼吸 > 血圧 <~~~~調節呼吸(000) 補助呼吸 /\\ CPAP = Tピース —— マスクカヌラ ※ラジックス 瞳孔 mm 対光反射(右・左) ○良 △鈍 ×無